☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１８

丹波新聞　平成３０年９月６日（木）

タイ研修の成果発表

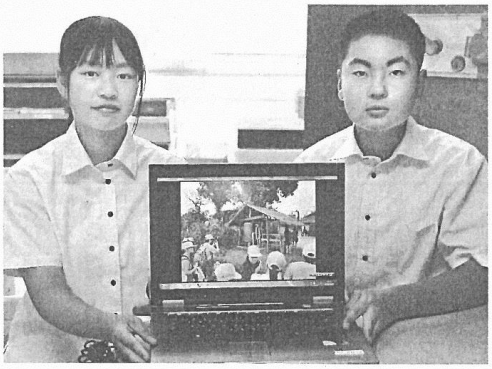
氷上西高2年生 赤木君、足立さん 現地同世代から刺激

丹波市を含む国際ロータリー第2680地区が主催するインターアクト・リーダー研修・タイ王国スタディーツアーに参加した氷上西高校2年の赤木昂雅君と足立佳生さんが2学期始業式の2日、研修成果を生徒に発表した。少数民族や現地の高校生との交流を通し、貧困問題を考え、はつらつとした同世代に刺激を受けた。

8月1－6日に訪問。北タイ・チェンライ県の山間部に住むアカ族の村では、濁った水を飲んでいる子どもたちにきれいな水をと「アカ族水支援プロジェクト」として、ロータリーと学校のインターアクトクラブが集めた募金（同校も1万118円を寄付）で水源タンクが補修され浄水器が新設された現地を見学。

日本人と比べ年齢の割に低身長なアカ族の子どもたちと交流し、栄養上の問題があることを知った。「歓迎式で鳥をつぶしたごちそうでもてなしてもらったけれど、現地の子どもたちはとても食べられないものと聞き、気が引けてはしが出なかった。僕たちがほとんど食べなかったので、余りを現地の子が食べてくれて良かった」と赤木君。足立さんは「困窮していても、子どもたちの笑顔は明るく、元気をもらった」と話した。

足立さんは「目に入って来るもの全てが新鮮だった。日本にいても、海外の事に関心を持ち、募金活動等で役に立ちたいと思った」と言い、赤木君は「タイでの当たり前は日本では当たり前でなく、その反対もそう。いろいろと考えさせられた」と話していた。



タイで学んだことを発表した足立さん（左）と赤木君＝氷上西高で